



崩落した石材の保管



1石ずつ移動して調査を実施



写真による記録



石材や矢穴のサイズを計測

石材調査

石垣石材についての基礎資料を作成するために、石積や寸法加工方法などを詳細に記録していきます。崩落時にできた破断や亀裂等の有無も観察します。

熊本城

～復興に向けて～



平成30年 春夏号



仮設屋根撤去中の大天守



西大手門と満開の桜



復興見学ルート案内板



案内板 QR コード



復興見学ルート図

復興見学ルート・説明パネル

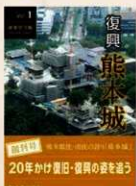
地震後、熊本城周辺の24カ所には案内板を設置し、順番に巡ると熊本城全体が見えてくるようにしました。案内板は多言語での説明文や、補足情報の動画が観み取れるQRコードを掲示しています。



二の丸の見学通路

『復興熊本城 vol.1被災状況編』を刊行しました。

平成28年(2016)の熊本地震によって甚大な被害を受けた熊本城の記録集を、20年かけて定期的に発行します。第1集では地震による建物や石垣の被害状況、平成29年度上半期までの復旧工事の様子、調査研究の成果などを収録しました。熊本県内の書店などで販売しています。



『熊本城復旧基本計画』を策定しました。

熊本城復旧の基本的な計画や具体的にに取り組むべき施策、20年にわたる復旧期間の中での段階的な公開の時期などを示した『熊本城復旧基本計画』を平成30年3月に策定しました。熊本城総合事務所のホームページや熊本市内の図書館などで内容をご覧ください。



熊本市 熊本城総合事務所 電話：096-352-5900
熊本城調査研究センター 電話：096-355-2327



H29.4.14 天守閣工事 西より



H29.10.27 天守閣工事 西より



H30.1.26 天守閣工事 東より



H30.2.20 天守閣工事 西より



小天守内側石垣崩落石材蓄積作業



小天守内側石垣崩落石材回収作業



小天守石垣解体作業（裏込め掘削）



小天守石垣解体前写真記録作業

天守閣復旧整備工事では、地震でダメージを受けた建物の復旧整備と、崩落した石垣の解体修理を進めています。

天守閣復旧整備工事



H29.5.18 崩落石材を無人重機で回収 南より



H29.10.27 下からの構台を建設後、上の構台を撤去 南より



屋根瓦を一枚ずつ回収



建物部材回収作業

飯田丸五階櫓の復旧工事は、崩落石材を無人重機で回収し、櫓本体を支える鉄骨骨格を組み立てました。櫓本体の部材回収後、石垣の解体修理を進めていきます。

飯田丸五階櫓石垣復旧工事

発掘調査の経過

長堀

長堀復旧に先行して、発掘調査を実施しました。調査では江戸期や明治に修復された石垣のグリ石層や、櫓の支柱石の基礎構造を確認しました。



測量風景



折れた支柱石



明治期修復の石垣グリ石層

仮設見学通路

復旧の様子を公開するために、仮設見学通路を整備します。江戸時代の遺構状況を確認するために、発掘調査を実施しました。調査の結果、観音像が彫られた石材を、建物礎石に転用しているものが発見されました。



発掘風景



礎石に転用されていた観音（仮木）。玄山匠製。サイズはタテ46cm×ヨコ52cm。

発掘調査後、崩落した石垣の解体修理を進めています。

熊本地震における熊本城の被災状況

熊本城全体の石垣：973面、約79,000㎡
特別史跡熊本城跡の土地面積：約512,000㎡

平成28年4月16日1時25分「本震 M7.3」

※前震での被害を含む

種類	被害数量	内容
重要文化財建造物	13棟	倒壊2棟、一部倒壊3棟。他は屋根・壁破損など
復元建造物	20棟	倒壊5棟。他は下部石垣崩壊、屋根・壁破損など
石垣	崩落・膨らみ・緩み 517面 (うち崩落50箇所、229面)	約23,600㎡ (全体の29.9%) (うち崩落約8,200㎡ (全体の10.3%))
地盤	陥没・地割れ70箇所	約12,345㎡
便益施設・管理施設	26棟	屋根・壁破損など

建物の部材回収

(東十八層櫓建築部材の回収)



釘など分別



部材対照作業



仮設倉庫に格納